

前回定例会以降の動き

柏崎市危機管理部 防災・原子力課

1 安定ヨウ素剤事前配布説明会【3月6、7日】

新潟県、刈羽村と共同で、6日（土）に柏崎市産業文化会館、7日（日）に刈羽村生涯学習センターラピカを会場にP A Z在住者を対象とした事前配布説明会を開催した。また、今回から郵送配布も実施した。2日間で市民266人、郵送で168人、合計434人に安定ヨウ素剤を配布した。市の配布率は、累計で70.5%。

2 安全協定に基づく状況確認【3月9日】

新潟県・刈羽村と共同で実施した。

7号機安全対策工事の総点検の実施状況の説明を受けるとともに、工事が完了していない箇所を現場確認した。

- ① 7号機 原子炉建屋火災感知器設置の一部未完了
 - ② 7号機 高圧代替注水系配管貫通部の止水工事の未施工
 - ③ 6／7号機 廃棄物処理建屋配管の貫通部の火災防護工事の未施工
 - ④ 4号機不足電圧継電器点検における安全処置の一部未実施
- について、現場で説明を受けた。

3 安全協定に基づく臨時の状況確認【3月22日】

新潟県・刈羽村と共同で実施した。

7号機安全対策工事の未完了事案、I Dカード不正使用事案、核防護機能に係る規制庁の評価の事案について、事業者から説明を受け、質疑応答を行った。

7号機安全対策工事の未完了箇所を確認した。

- ① 6号機防火ダンパー未設置
- ② 6／7号機貫通部防火対策未完了

4 第12回 柏崎刈羽地域原子力防災協議会作業部会【3月25日】

Web会議で実施

放射線防護資機材等の供給体制、緊急時モニタリングの実施体制、原子力災害時の医療等の実施体制、原子力災害と雪害の複合災害時の対応について議論した。

5 新潟県原子力発電所周辺環境監視評価会議第74回定例会【3月29日】

令和3年度柏崎刈羽原子力発電所周辺環境放射線監視調査年度計画、温排水等漁業調査年度計画などについて議論した。

6 新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会（令和2年度第9回）【3月30日】

柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の確認事項と議論の状況の整理等及び委員間の意見交換を

傍聴した。

7 安全協定に基づく状況確認【4月9日】

新潟県・刈羽村と共同で実施した。

柏崎刈羽原子力発電所に関する概要説明を受けた。

サービスホール展示館を視察した。

以上

委員ご質問への回答

<宮崎委員>

新しい防災ガイドブック「原子力災害編」が届きました。前回編にはなかった「複合災害時の行動」が載っています。

質問1、防風雪との複合災害のところに、「避難中のリスクがあるため、自宅などで屋内退避を行い、原子力災害の避難指示が出た場合は、天候が回復してから避難先自治体に避難する。」となっています。

別なページには、PAZは、「放射性物質の放出前に避難する」と書いてありますが、東電の説明では、事故事象発生から38時間後にベント操作（放射性物質の放出）を行うとなっています。天候の回復はベント操作前でなければ被ばくしてしまいます。天候が回復したとしても、道路の啓開や除雪が十分な、されPAZ住民2万人が一斉に避難行動ができるとは思えません。

「天候が回復してから避難先自治体に避難する。」ということは、放射性物質が個々人はもちろん、道路も田畑にも降り注ぐ中を移動する計画だということですか

【回答】

柏崎市原子力災害広域避難計画では、自然災害と原子力災害との複合災害が発生し、自然災害の人命へのリスクが極めて高い場合は、自然災害に対する避難行動を優先します。

暴風雪との複合災害で、暴風雪のリスクが極めて高い場合は、暴風雪に対する避難行動を優先し、まずは自宅等で屋内退避を行い、暴風雪に対する安全が確保された後に、原子力災害に対する避難行動を行います。その際に、自家用車による避難が困難な状況下においては、自衛隊など国の実動部隊等に救助を要請し避難を実施することが想定されます。

また、原子力災害と雪害の複合災害時の対応については、現在、柏崎刈羽地域原子力防災協議会作業部会において、国、県及び関係機関で連携して協議を進めているところであります。

質問 2-①市の避難計画には、各避難所に先遣隊を派遣するとなっています。避難所 1 か所について何人派遣する計画ですか。PAZ の場合、避難所は何か所ですか。

質問 2-②PAZ では警戒事態で避難準備、施設敷地緊急事態で避難開始の指示が出ます。市の先遣隊は住民が到着する前に避難所到着するものと思いますが、どの段階で出発するのですか。

質問 2-③防風雪との複合災害の場合、職員が勤務中であれば、隊員は短時間でそろいますが、天候の回復を待って出勤しますか。住民と同じスタートになる計画ですか。

質問 2-④防風雪との複合災害が休日になった場合、職員は天候や積雪状況に関わりなく招集されるのでしょうか。その場合、隊員がそろわないことが十分考えられます。放射性物質放出に関係なく、そろうまで待つのですか。

【回答】

(質問 2-①) 原子力災害時には、コミュニティセンター（以下「コミセン」という）に緊急時地区派遣隊が派遣されます。PAZ 内のコミセンは 7 か所、UPZ 内のコミセンは 23 か所で、各コミセンに 3 人ずつ緊急時地区派遣隊が派遣されます。また、バス避難集合場所は、PAZ 内に 28 か所（うち 7 か所はコミセン）、UPZ 内に 76 か所（うち 18 か所はコミセン）あります。コミセン以外のバス避難集合場所について、PAZ 内のバス避難集合場所は 1 か所 2 人、UPZ は 1 か所 1 人のバス避難支援隊を事前に選定しております。バス避難集合場所となっているコミセンは、緊急時地区派遣隊がバス避難支援隊の役割を兼ねています。また、必要に応じて追加派遣します。さらに、避難受入先市町村へは広域避難先遣隊を 4～8 名派遣する計画となっております。

(質問 2-②) PAZ での防護措置は、警戒事態で住民は帰宅、施設敷地緊急事態で避難の準備、全面緊急事態で避難となります（要配慮者などは、施設敷地緊急事態で避難）。PAZ では、緊急時地区派遣隊・バス避難支援隊は、警戒事態の段階で直ちに担当場所に向かうこととしております。また、広域避難先遣隊においては、警戒事態の段階で避難先へ行く準備をして、施設敷地緊急事態の段階で直ちに担当の避難受入先市町村に向かうこととしております。

(質問 2-③) 緊急時地区派遣隊及び PAZ のバス避難支援隊は、警戒事態の段階で直ちに担当場所に向かうことになってはいますが、暴風雪の状況によっては天候の回復を待って出発することも想定されます。

(質問 2-④) 緊急時地区派遣隊などの職員は、原子力災害時にはすぐに参集するよう、研修や訓練を受けていますが、実際の複合災害時には、天候や積雪により参集が困難な場合も考えられます。いち早く各地区に職員を派遣することが重要であることから、隊員全員が揃わない場合には、他の職員を入れて人数を確保するか、少ない人数で出発することも想定されます。